

令和4年度 授業改善推進プラン 技術・家庭科 (大森第三中学校)

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・等角図・第三角法による正投影図など、製図の学習を進めることができ、実習へ向けた設計図づくりの学習ができた。しかし、木の厚みや寸法の計算など、意識する項目が多く、図をかくことに苦手を感じる生徒がいたため、立体的に図を示す支援を行う。
- ・力の伝達、動きを変化させる仕組みの学習において、実際に手にとってリンク機構をつくることができ、動きを確認できた。中には、ネジ止めやリンクの加工に苦戦したため、なめらかな動きにならない生徒がいるため、進度の調整、工具の使い方の支援を進める。
- ・実習題材を精選し、ICT機器を活用しながら学習の基礎・基本の定着を図った。週に1時間の授業での達成度は十分でない面もあるが、3年間の指導計画で学力の定着を目指し継続する。
- ・達成感の高い作品を教材としたことで、多くの生徒が家庭で作品を使用してくれている。今後も達成感をもてる作品作りを継続することが重要と考える。

技術・家庭科の課題と具体的な改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
知識・技能	・実習において、作業の進度に差が生じる。ドライバー、ニッパ、ラジオペンチなど器用に使いこなせる生徒においては早く進められるものの、普段から使用頻度の高い生徒にとっては失敗が目立ち、そのため結果として遅れが生じる様子が見られる。 ・衣食住の生活のうち、衣と食の分野では、作品製作や調理などの実習における理解と技能に個人差が生じる。	・段階的に進度の進ませ方を調整し、全員が一定水準に達するまで待ち、足並みを揃える。進度の早い生徒においては、同じ班のメンバーの支援や別の発展課題を用意し調整をする。必要に応じて授業外での活動時間を確保する。 ・基礎的な知識については、小テストを行い、定着を図る。技能面では手順に関する資料や動画などを共有し、繰り返し練習できるようにする。また、状況に合わせて、再テストや補習などを行う。
思考・判断・表現	・作品設計の段階において、身の回りにある問題を解決するためにあると良いものをテーマに考える時間を設けたが、問題は挙げられるものの、解決するものの形に結びつかず、製作するものの設計にスムーズに移行できない様子が見られる。 ・製作する作品を、より使い心地が良くなるよう機能やデザインを工夫し、自分の発想を表現できる力をつけさせる。 ・作品作りにおいて、製作する上での問題点を考え、問題を解決しようとする判断力を身につけさせる。自分の生活をよりよくしようとする意欲を今後も持続させる。	・具体的に社会にある製品を調べたりして、構造の工夫から使いやすさを追求している様子がわかるよう支援をする。また、紙での表現のしづらさを取り除くため、コンピュータを用いてCADによる立体づくりも取り入れる。 ・生徒の工夫や発想のよいところを見つけ、褒めるよう心がける。自分の発想をどのように表現したらよいか、必要に応じてアドバイスをを行う。 ・見本となる作品例や段階標本を示すことにより、自身の作品の進度や精度を確認しながら、創意工夫できるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	・学習した内容をもとに、技術が社会や環境との関わりを考える場面において、生徒記述や発言での意見が深まらず、表面的な考察で止まってしまう。そのため、まとめが当たり障りのないものになっており、技術のこれからを見通す考えとして不十分なものが見られる。 ・作品製作や実習は意欲的に取り組む生徒が多いが、座学の授業では、興味関心に個人差があり主体的な取り組みにもばらつきが見られる。 ・作品製作では、苦手意識をもつ生徒に対して、意欲的に取り組むことが出来るような働きかけが必要である。	・ジャムボードなど、コンピュータを用いて生徒が各々の発言が出しやすい環境をつくり、他者の意見を汲み取りながら考えを深化させる支援を行う。 ・座学の授業では、実物投影机・パワーポイント・プロジェクター・電子黒板等のICT機器や、一人一台端末などを活用し、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような教材の工夫をする。また、めあてを明確にすることにより、生徒が目標を持って授業に臨めるようにする。 ・作品製作では、授業毎に自己評価を行う。小さな目標を段階的に設定することにより、達成感を味わいながら進められるようにする。